

# 2018年3月期 第1四半期決算概要



日進工具株式会社

2017年7月31日  
(証券コード6157)

# 目次

<b>1. 2018年3月期1Qの業績</b>	P. 3 . . .	第1四半期決算の概要
	P. 4 . . .	営業利益の増加要因
	P. 5 . . .	損益計算書サマリー
	P. 6 . . .	貸借対照表サマリー
	P. 7 . . .	四半期業績推移
<b>2. 2018年3月期の業績見通し</b>	P.14 . . .	業績見通し
	P.15 . . .	第1四半期における進捗状況
	P.16 . . .	2018年3月期の重点戦略
	P.17 . . .	配当予想
<b>&lt; 参考資料 &gt;</b>	P.19 . . .	過去5年間の業績と 主要データ推移
	P.20 . . .	投資指標
	P.21 . . .	株価推移とバリュエーション
	P.22 . . .	I R 情報サイトのご案内

**2018年3月期  
第1四半期の業績**



# 第1四半期決算の概要

売上高、利益ともに四半期ベースでの過去最高を更新

(百万円)

	2017年3月期 1Q累計	2018年3月期 1Q累計	上期予想	進捗率
売上高	2,175 ( +6.5% )	2,288 ( +5.2% )	4,580 ( +3.6% )	50.0%
営業利益	585 ( +26.9% )	644 ( +10.2% )	1,030 ( -7.2% )	62.6%
経常利益	589 ( +20.2% )	651 ( +10.5% )	1,040 ( -7.1% )	62.6%
四半期純利益	376 ( +19.3% )	412 ( +9.5% )	700 ( -6.8% )	58.9%

( )内は前年同期比増減率

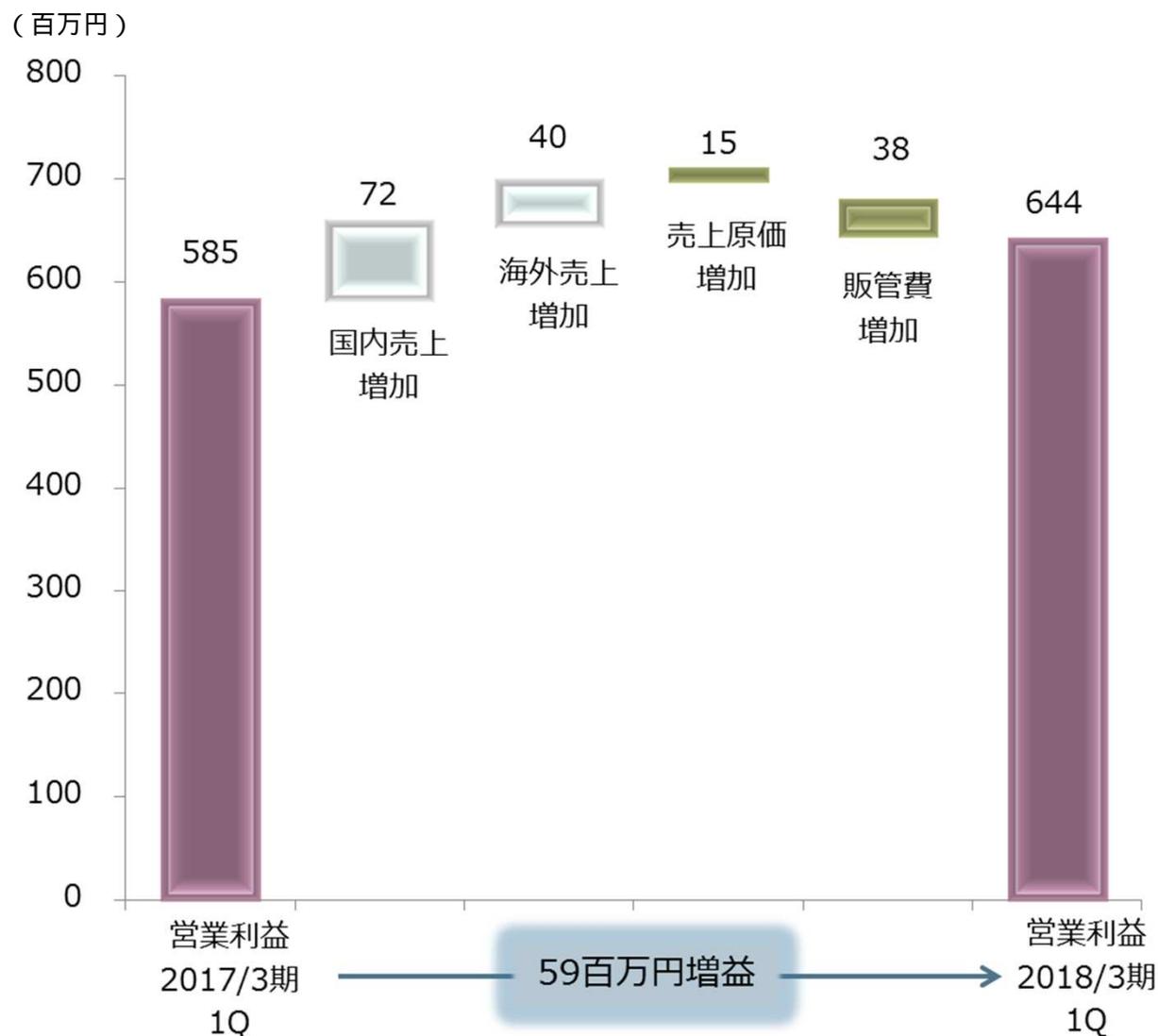
米国を中心とした海外経済の回復基調に加え、好調な企業収益や雇用環境等を背景に設備投資や個人消費が底堅く推移するなか、安全性の向上や環境負荷低減に向けたモデルの人気もあり自動車関連が好調であったほか、主力スマートフォンの新製品向けに電子部品関連も順調に推移。

この結果、連結売上高は前年同期比5.2%増の2,288百万円。上期予算に対する進捗率は、50.0%と計画通りのスタートとなった。

連結経常利益は前年同期比10.5%増の651百万円。上期予算に対する進捗率は62.6%で売上高のそれを上回った。

売上高経常利益率は28.5%となり、前年同期の27.1%から1.4ポイント向上。

# 営業利益の増加要因



国内売上高は前年同期比72百万円、4.3%アップ、海外も同40百万円、8.7%アップ。売上高全体では113百万円、5.2%増加し、前年度の第2四半期(2,246百万円)を抜き四半期ベースでの過去最高を更新。

113百万円の売上高増加に対して、NS香港の連結の影響等から売上原価は15百万円の増加に止まった。(3ヶ月のタイムラグがあり、連結上減算される原価が多かったことによる。)

販管費はブランディング施策に伴う広告宣伝費等から38百万円増加。

営業利益は644百万円で、前年同期比59百万円、10.2%の増加。売上高営業利益率は1.3ポイント上昇の28.2%であった。

# 損益計算書サマリー

(百万円)

	2017年3月期 1Q累計	2018年3月期 1Q累計	前年同期比	コメント
売上高	2,175	2,288	+5.2%	小径エンドミルはスマートフォンや車載向け電子部品を含む自動車関連の需要に下支えされ順調に推移。
売上総利益 (率)	1,257 (57.8%)	1,355 (59.2%)	+7.8%	海外子会社（NS香港）の4-6月の仕入額が1-3月の倍の水準となったことから、原価の連結消去が増え、売上総利益に影響。
販管費 (率)	672 (30.9%)	710 (31.1%)	+5.7%	ブランディング施策の一環として行った、スポンサーシップ契約や新聞・テレビ広告により増加。
営業利益 (率)	585 (26.9%)	644 (28.2%)	+10.2%	販管費が増加したものの、売上総利益の増加により営業利益は10.2%増加し、売上高営業利益率も28.2%と1.3ポイント向上。
経常利益 (率)	589 (27.1%)	651 (28.5%)	+10.5%	営業外損益に大きな変化はなく、経常利益は10.5%の増加。
四半期純利益 (率)	376 (17.3%)	412 (18.0%)	+9.5%	
設備投資額	171	124	-27.1%	今期計画では第3四半期以降での設備導入が多い。
減価償却費	145	148	+2.1%	設備の積極導入により、当期の減価償却費は上昇。
従業員数	313人	324人	+3.5%	新卒者に加え、営業や工場での人員強化のため中途採用を実施。

( )は売上高に対する比率

# 貸借対照表サマリー

(百万円)

	2017年 3月期	構成比	2018年 3月期1Q	構成比	前期比
(資産の部)					
流動資産	7,971	63.7%	7,858	63.6%	-1.4%
現金及び預金	4,659	37.2%	4,466	36.1%	-4.1%
受取手形及び売掛金	1,422	11.4%	1,481	12.0%	+4.2%
棚卸資産	1,592	12.7%	1,573	12.7%	-1.2%
固定資産	4,546	36.3%	4,500	36.4%	-1.0%
有形固定資産	4,047	32.3%	3,954	32.0%	-2.3%
無形固定資産	118	0.9%	155	1.3%	+32.0%
投資その他の資産	380	3.0%	390	3.2%	+2.7%
資産合計	12,517	100.0%	12,359	100.0%	-1.3%
(負債の部)					
流動負債	1,354	10.8%	1,175	9.5%	-13.2%
買掛金	230	1.8%	286	2.3%	+24.4%
固定負債	495	4.0%	425	3.4%	-14.3%
負債合計	1,850	14.8%	1,601	13.0%	-13.5%
(純資産の部)					
純資産合計	10,666	85.2%	10,758	87.0%	+0.9%
負債・純資産合計	12,517	100.0%	12,359	100.0%	-1.3%

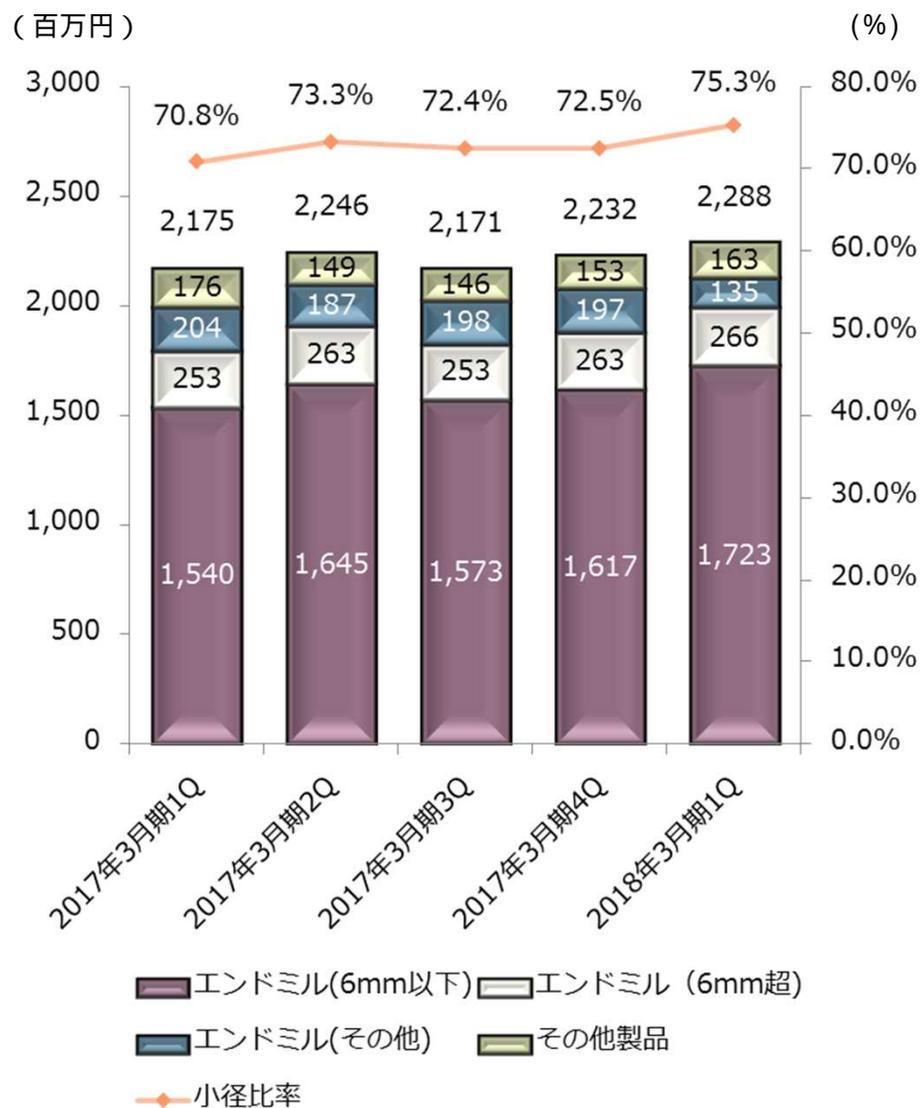
流動資産は、6月の売上高が高水準であったため売上債権が増加したものの、法人税や賞与の支払いにより前期末に比べ現預金が減少したほか、棚卸資産も減少したため1.4%の減少となった。

法人税や賞与の支払いにより、未払法人税等、賞与引当金が減少したこと等から、流動負債は13.2%減少。

純資産は0.9%増加したが、負債の減少が大きく、負債・純資産合計は1.3%の減少となった。

# 四半期業績推移（売上高の推移 製品別）

## 製品別売上高と小径比率の推移



自動車関連や電子部品関連といったユーザーの好調に支えられ、売上高は四半期ベースでの過去最高を更新。

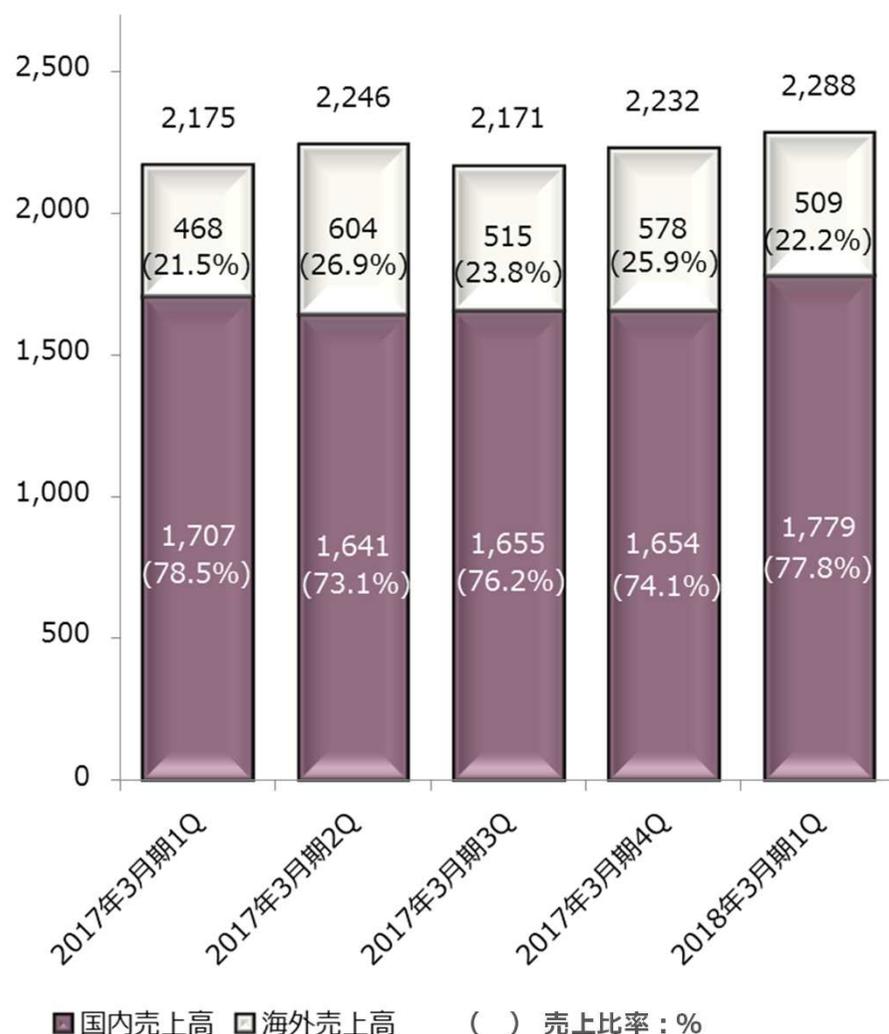
製品別では、エンドミル（その他）及びその他が減少した一方、主力製品のエンドミル（6mm以下）は前四半期比6.5%、前年同期比では11.9%増加した。

小径製品の好調により、小径比率は75.3%と水準を切り上げた。

# 四半期業績推移（売上高の推移 国内・海外）

## 国内・海外売上高の推移

（百万円）



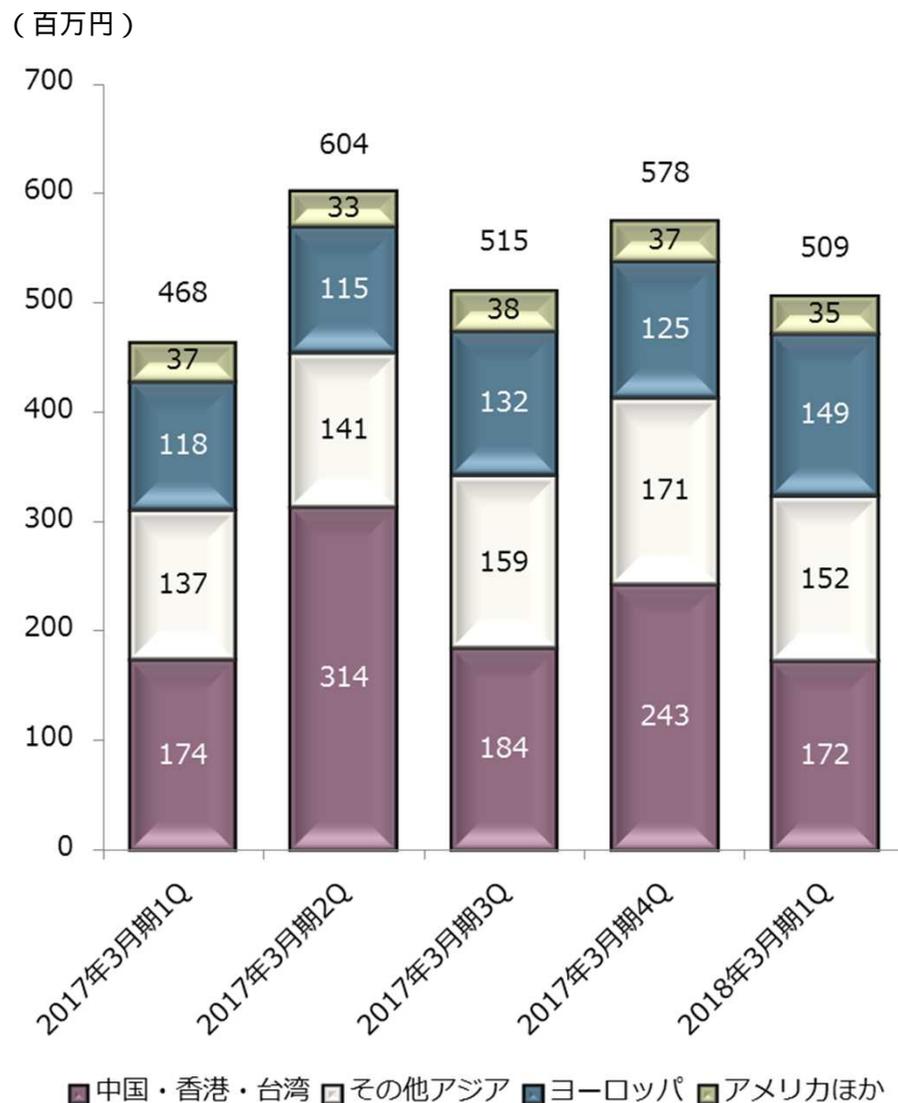
海外売上高は前年同期の水準は上回ったものの、前3四半期に比べ減少。欧州はまずまずの水準であったが、タイを中心とした東南アジアと連結上3ヶ月のタイムラグのある中国分（1月～3月のNS香港分）が減少。

国内は好調な市況環境を背景に順調、特に自動車のライト関連やスマートフォンやクラウド向けの電子部品、半導体関連では仕事が多く、売上高を牽引した。

これらにより、海外売上高比率は22.2%と前年同期よりは増えたが、直近の水準からは低下となった。

# 四半期業績推移（売上高の推移 海外地域別）

## 海外地域別売上高の推移



海外地域別の状況としては、

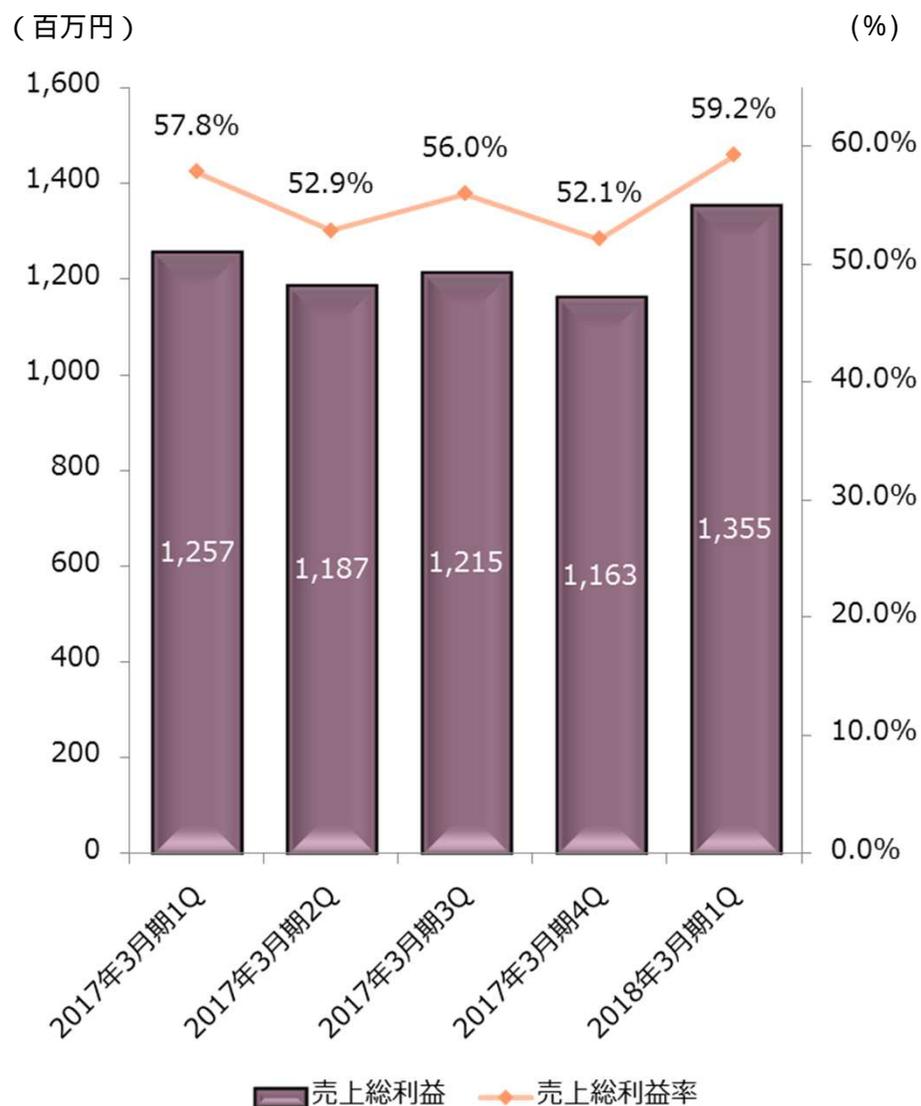
ヨーロッパは緩やかな景気回復傾向を受けて、安定した動きが継続。前年同期比+25.3%、前四半期比でも+18.4%と増加した。

タイを中心としたその他アジアは、昨年度を通して回復傾向にあったが、当第1四半期は一服となり、前年同期比では10.8%増加したものの、前四半期に比べると11.4%の減少であった。

中国・香港・台湾向けは、メインとなる中国のスマートフォン向け需要のサイクルに影響を受けるため、前年同期比では1.5%とほぼ変わらなかったが、前四半期比では29.2%と大きく減少。中国向けの販売を行うNS香港が連結に当たって3ヶ月のタイムラグが発生するため、実際には連結対象期間となる2017年1月～3月の需要減による影響。昨年同様NS香港の売上は4月～6月がピークになると想定されることから、連結ベースでは第2四半期の押し上げ要因となる。

# 四半期業績推移（売上総利益の推移）

## 売上総利益と売上総利益率の推移



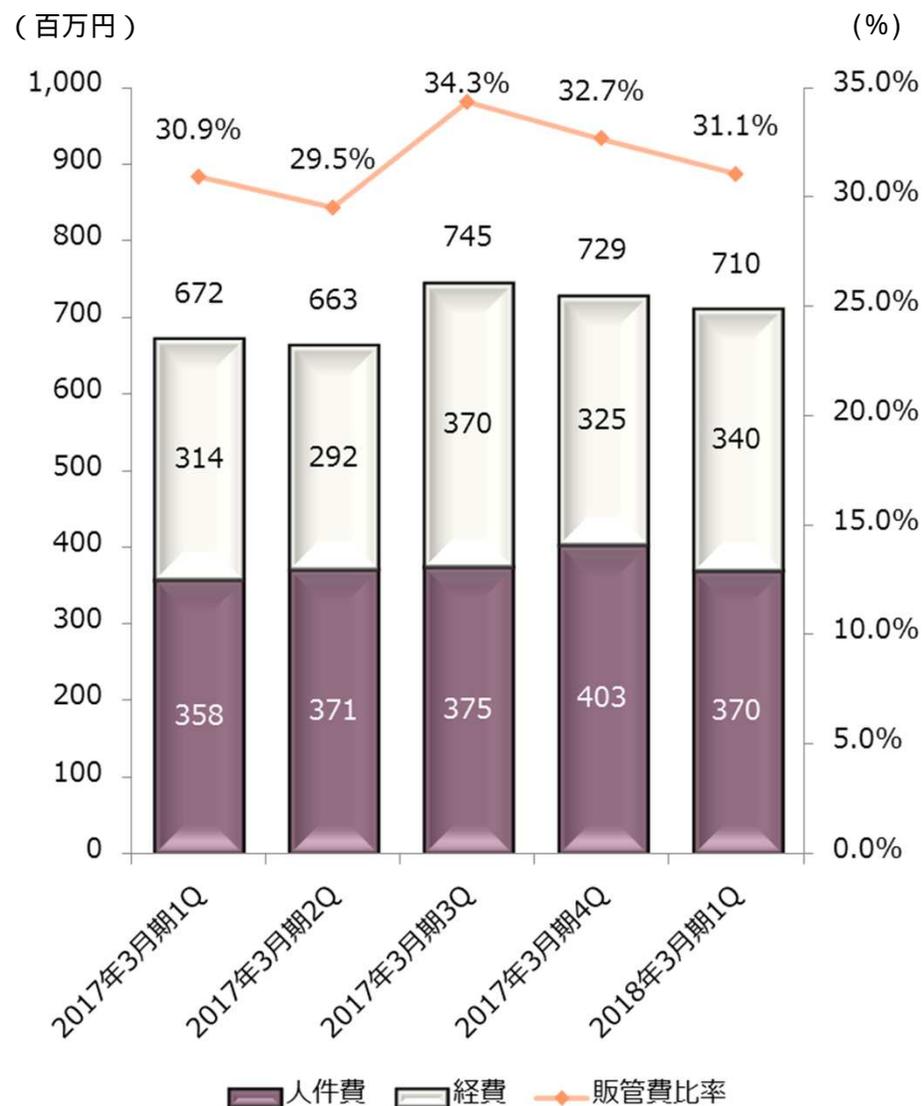
製品製造原価は、労務費と外注加工費の上昇により前年同期比3.6%の増加となったが、NS香港への4月～6月の売上高（NS香港の仕入高）が1月～3月のそれを大きく上回ったことにより、連結消去となる金額が膨らんだため（NS香港の連結対象期間には3ヶ月のずれがある）、売上原価は1.7%の増加に止まった。

売上高が5.2%増加した一方、売上原価が1.7%の増加に止まったため、売上総利益は1,355百万円と前年同期を7.8%上回った。また売上総利益率は59.2%と前年同期から1.4ポイント向上。

前年同期においてもNS香港の連結消去の影響があったが、当期の影響の方が大きかった（1月～3月と4月～6月の差が大きかったため）。

# 四半期業績推移（販管費の推移）

## 販管費と販管費比率の推移



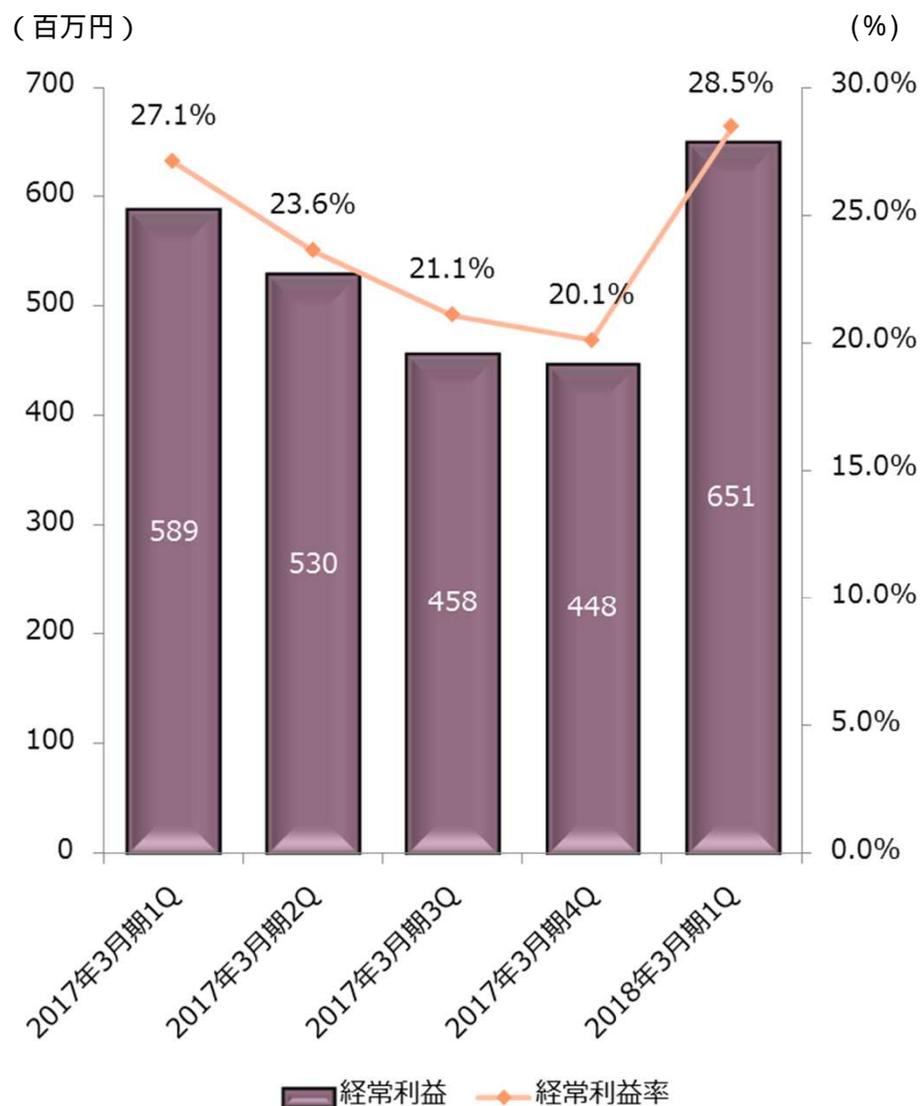
人件費は、昇給や賞与引当金の増額等から、前年同期比3.3%増加し370百万円（ただし前期においては第2四半期で賞与引当金の積み増しを実施している）。

一般経費は、ブランディング施策の一環としてスタートした楽天イーグルスやベガルタ仙台とのスポンサーシップ契約、また新聞・テレビ等への広告掲載等から、広告宣伝費が前年同期に比べ34百万円増えたこと等から、同8.4%増加の340百万円。

販管費全体では、同5.7%増の710百万円。売上高販管費比率は31.1%となり、JIMTOF出展や東証二部上場のあった直近2四半期の水準は下回ったものの、前年同期比では0.2ポイント上昇。

# 四半期業績推移（経常利益の推移）

## 経常利益と売上高経常利益率の推移



販管費が増加したものの、売上総利益の増加が上回り、営業利益は前年同期比10.2%増の644百万円。

営業外収益及び費用では、円高により前年同期で計上されたNS香港の為替差損が、今期は為替差益となり、差引で1百万円の増益要因となった。

経常利益は同10.5%増の651百万円と四半期ベースでの過去最高を更新。

売上高経常利益率は28.5%と前年同期を1.4ポイント上回った。

ただし、昨年同様NS香港の売上は4月～6月がピークになると想定されることから、第2四半期以降、売上総利益率は第1四半期を下回るものと思われる。

# 2018年3月期の業績見通し



## 業績見通し

(百万円)

	2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	前期比	コメント
売上高	8,825	9,130	+3.4%	燃料電池車の量産化や自動運転等の進展による車関連の需要及び主カスマートフォンの2017年モデル向け需要により底堅く推移すると予想。
営業利益	2,013	2,090	+3.8%	売上高に連動して増加を想定。
経常利益	2,026	2,100	+3.6%	同上
当期純利益	1,420	1,450	+2.1%	同上
設備投資額	774	713	-7.9%	主に生産機械設備の導入によるもの。今期は特別な設備投資の予定はない。
減価償却費	632	619	-2.1%	ほぼ例年通りの設備投資の水準となるため、減価償却費は横ばいの水準を想定。
EPS	113.63円	115.97円	+2.1%	
1株当り配当金	40円	40円	0.0%	株主還元強化の一環として、前期の記念配当を含めた水準を継続。

2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

# 第1四半期における進捗状況

(百万円)

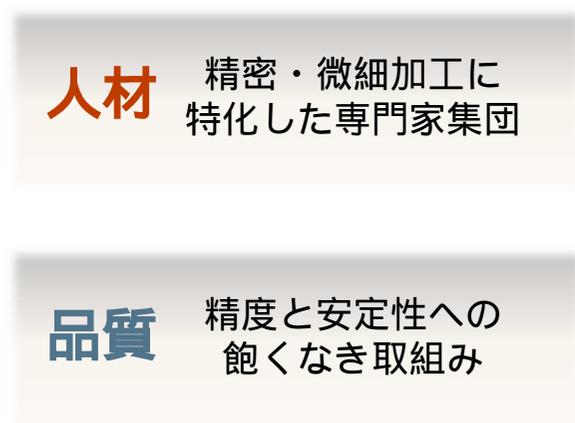
	2018年3月期 1Q累計	上期予想	進捗率	通期予想	進捗率
売上高	2,288 ( +5.2% )	4,580 ( +3.6% )	50.0%	9,130 ( +3.4% )	25.1%
営業 利益	644 ( +10.2% )	1,030 ( -7.2% )	62.6%	2,090 ( +3.8% )	30.9%
経常 利益	651 ( +10.5% )	1,040 ( -7.1% )	62.6%	2,100 ( +3.6% )	31.0%
四半期 純利益	412 ( +9.5% )	700 ( -6.8% )	58.9%	1,450 ( +2.1% )	28.4%

( )内は前年同期比増減率

# 2018年3月期の重点戦略（前期より継続）



**連結売上高91億円の達成  
&  
経常利益率20%、ROE10%の確保**



**生産**

自動化の推進  
製造技術向上による  
更なる高精度化の実現

**販売**

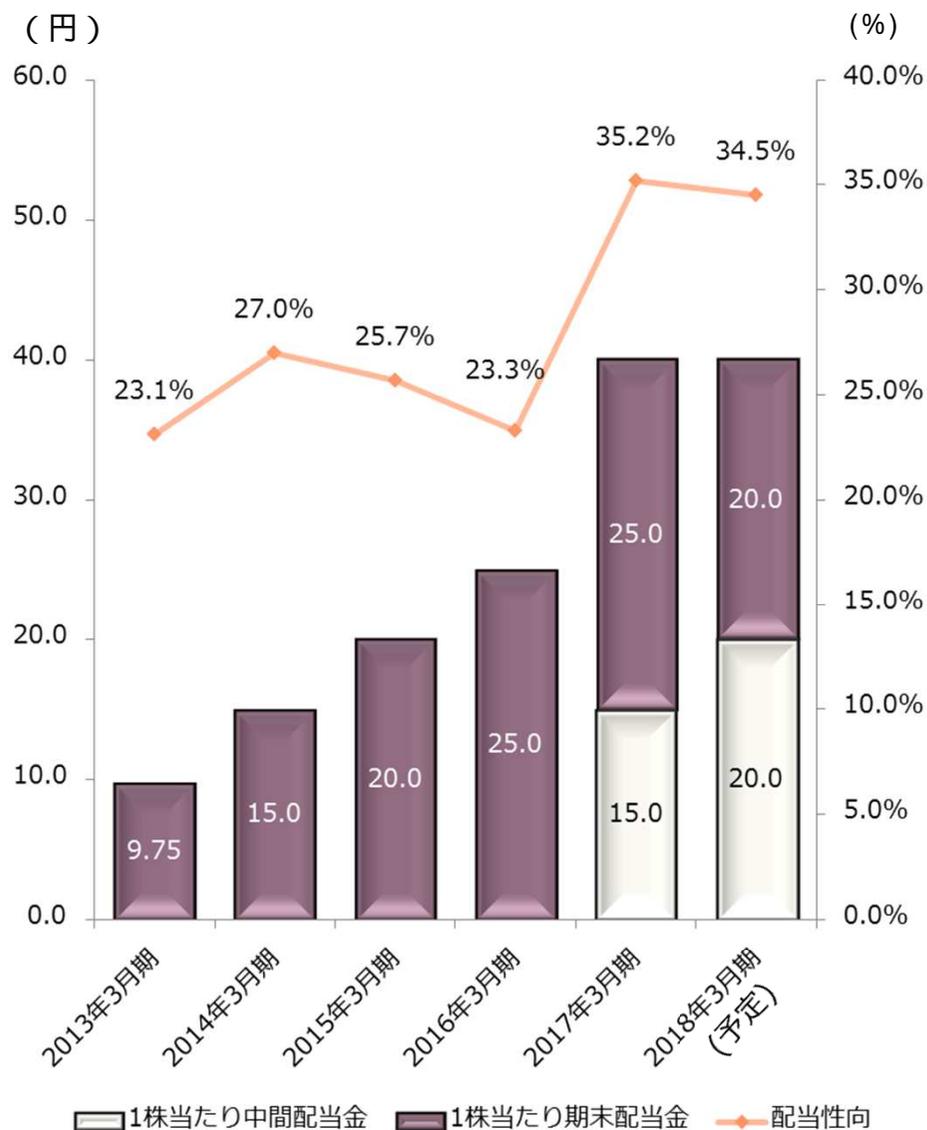
新規ユーザーの開拓  
既存ユーザーの深耕  
海外市場の拡大

**開発**

画期的な高付加価値製品の  
開発

**持続的成長の実現**

# 配当予想（株主還元について）



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

## 業績に応じた利益還元

- 2017年3月期の1株当たり年間配当金は40円  
中間配当は15円  
期末配当は25円（普通配当20円、記念配当5円）  
2016年12月支払の中間配当金についても2017年1月1日付の株式分割の影響を考慮しています。
- 2017年3月31日より株主優待を実施  
毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された1单元（100株）以上を保有する株主様を対象にオリジナルクオカード1,000円分を贈呈
- 2018年3月期の1株当たり年間配当金は40円を予定（中間配当20円、期末配当20円）  
業績予想に対する配当性向は34.5%

自社株買いではなく  
配当にウェイトを置く方針

## < 参考資料 >



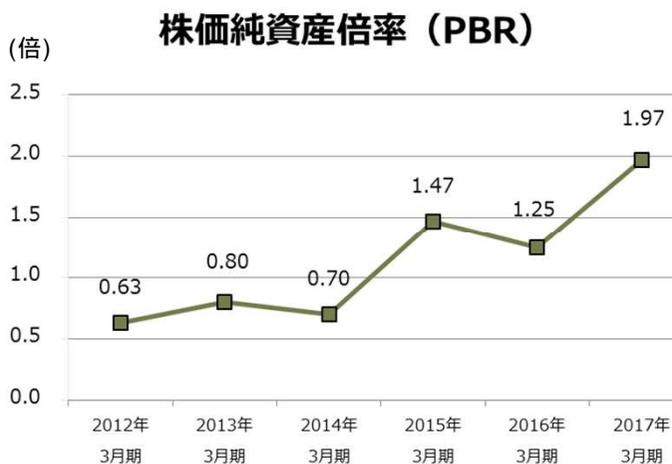
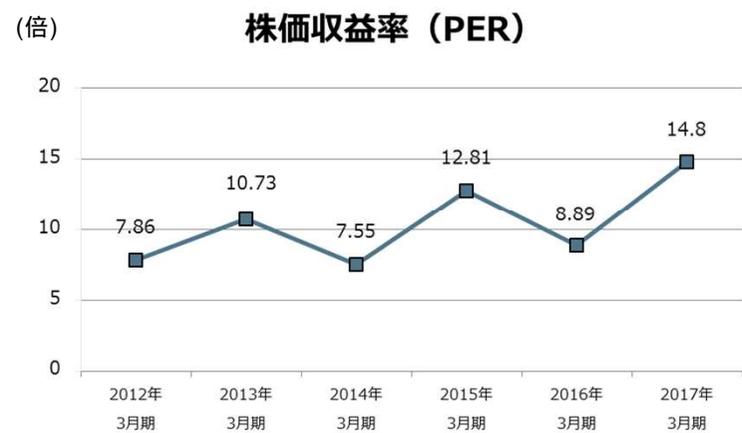
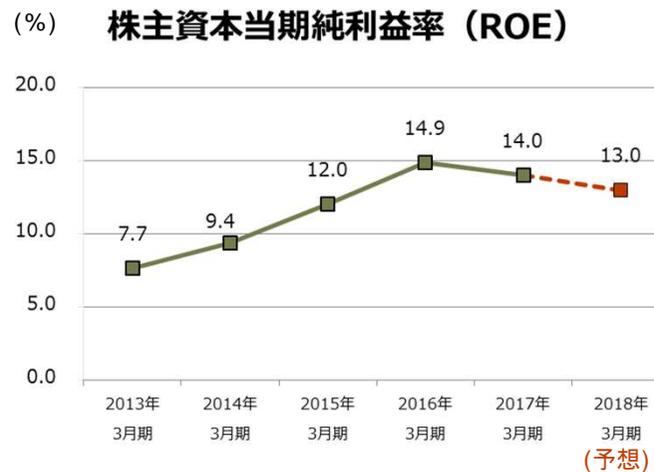
# 過去5年間の業績と主要データ推移

(百万円)

	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期
売上高	5,997	6,418	7,402	8,382	8,825
営業利益(率)	921 (15.4%)	1,069 (16.7%)	1,481 (20.0%)	1,914 (22.8%)	2,013 (22.8%)
経常利益(率)	951 (15.9%)	1,107 (17.2%)	1,534 (20.7%)	1,954 (23.3%)	2,026 (23.0%)
当期純利益(率)	527 (8.8%)	694 (10.8%)	973 (13.1%)	1,342 (16.0%)	1,420 (16.1%)
有利子負債額					
純資産額	7,106	7,680	8,480	9,569	10,666
総資産額	8,297	9,075	10,339	11,371	12,517
自己資本比率	85.6%	84.6%	82.0%	84.2%	85.2%
設備投資額	1,001	469	612	1,295	774
減価償却費	563	534	474	505	632
1株当たり配当金	9.75円	15円	20円	25円	40円
従業員数	281人	284人	281人	280人	322人

2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

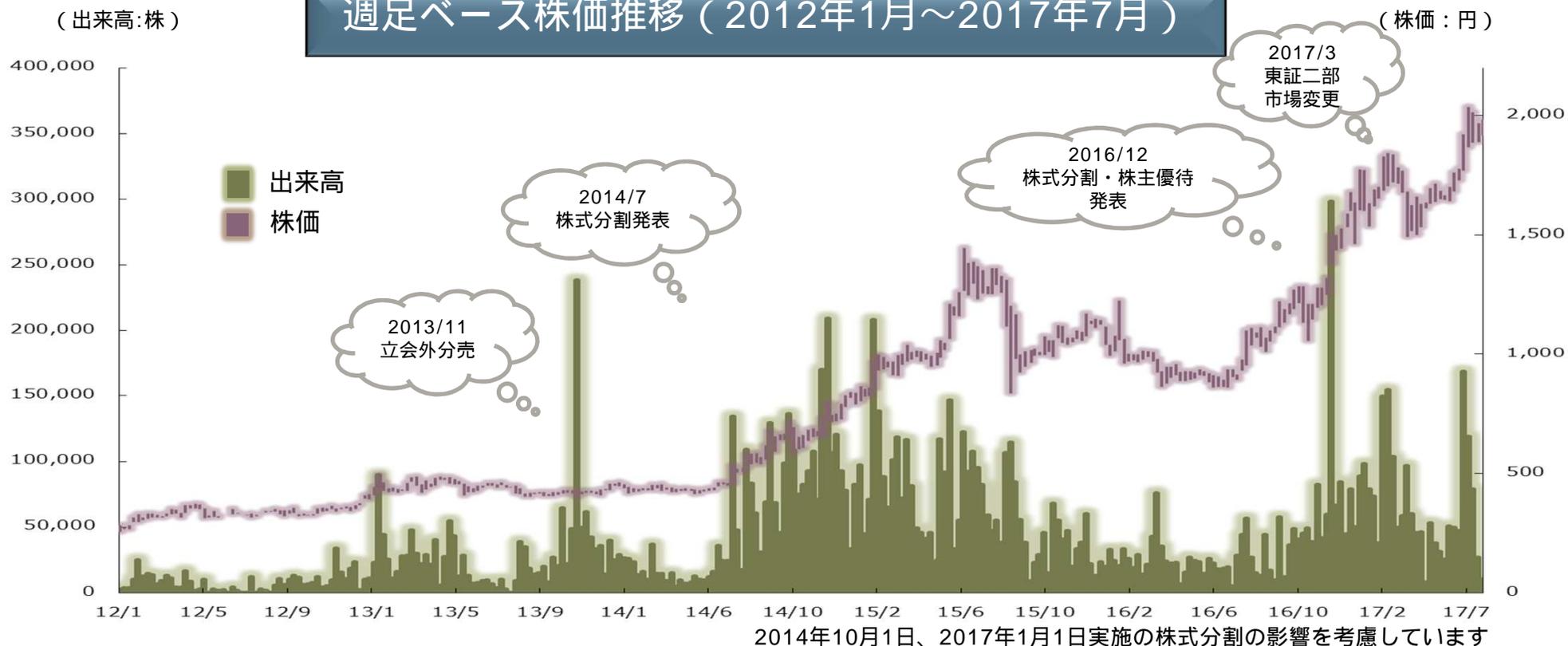
# 投資指標



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

# 株価推移とバリュエーション

## 週足ベース株価推移 (2012年1月～2017年7月)



## バリュエーション (2017年7月26日現在)

売買単位：100株

時価総額：250億円

ROE (17/3期実績)：14.0%

単元株価格：20万300円

PER (18/3期予想)：17.27倍

PBR (17/3期実績)：2.35倍

# IR情報サイトのご案内

NS TOOL

お知らせ | 採用情報 | お問い合わせ | サイトマップ | English

製品情報 「つくる」の先をつくる 事例・技術情報 会社情報 **IR情報**

TOP > IR情報

Investor Relations  
IR情報

IRトピックス

IR資料 2016.11.16  
SRアナリストレポート (2017年3月期第2四半期) [PDF] (629KB)

IR資料 2016.11.16  
ベル企業レポート (2017年3月期第2四半期) [PDF] (1,077KB)

IR資料 2016.10.31  
2017年3月期 第2四半期決算概要 [PDF] (1,232KB)

IRニュース

IR情報

IR情報トップ

トップメッセージ

個人投資家の皆様へ

IRトピックス・IRニュース

+ 経営方針・体制

+ 事業戦略

+ 業績・財務情報

+ IRライブラリー

+ IRイベント

+ 株式情報

よくあるご質問

IRサイトの使い方

## IRトピックス

最新のIR活動に関する話題を掲載しています

## メニュー項目

「+」をクリックいただくと各カテゴリーのメニューが表示されます  
現在閲覧中の項目はオレンジ色でハイライト表示となります

## IRニュース

有価証券報告書や決算短信など適時開示情報に関するニュースはこちらで確認いただけます

URL : <http://www.ns-tool.com/ir/>

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください

## お問い合わせ

# 日進工具株式会社

執行役員管理部長	田島 寛
管理部経理課課長	今関 弘毅
管理部 I R 担当	松尾 友紀子

TEL	:	03-3763-5672
FAX	:	03-3764-8225
E-mail	:	ir@ns-tool.com

(注) 将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、  
確約や保証を与えるものではありません。  
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。